

自動車用乾燥機を開発

にかほ市
丸大機工 水性塗料需要に対応

にかほ市金浦の産業機械・精密部品製造の丸大機工（菊地兼治社長）は、自動車塗装用の温風乾燥機を開発した。自動車の塗料が揮発性から水性へ切り替わり、需要が高まっていることに対応した。菊地社長は「自社技術を応用し

た製品で、環境分野に貢献していきたい」と話し、自動車修理工場に向けて販路を開拓したい考えだ。

水性塗料は2004年の大気汚染防止法改正後、導入が盛んになった。それまで主流だった揮発性有機化合物（VOC）を含む塗料は大気汚染や健康被害の原因とされ、06年には排出規制の対象に加わった。現在多くのメーカーや修理工場では、塗装工程でVOCの排出が少ない水性塗料への切り替えが進んでいる。

しかし水性塗料は揮発性に比べて乾きにくく、作業に時間がかかるのが難点だった。丸大機工は自社の技術を生かそうと、2年前から開発を進めてきた。

新しい温風乾燥機は、事故防止のための自己温度制御機能（PTC）付きヒーター。内部に静電気除去装置（イオンライザー）を備え、送風時に塗装面へのちりやほこりの付着を最小限に抑えられる。塗料メーカーが行った実証実験によると、他社製品より乾燥時間が1分近く短い結果が出たという。

乾燥機の本体は長さ118センチ、幅63センチ。狭い作業場でも使えるよう、風量と風向を簡単に調節できる操作パネルと本体を台車に載せて移動しやすくした。台車の車輪から本体までは高さ76センチ。同社は「ユーザーの意見を取り入れながら、今後も改良を加えていきたい」と話している。問い合わせは同社 ☎0184・38・3988

丸大機工が開発した自動車塗装用の温風乾燥機

